

< I. 大腿骨近位部骨折の治療状況調査 図表 >

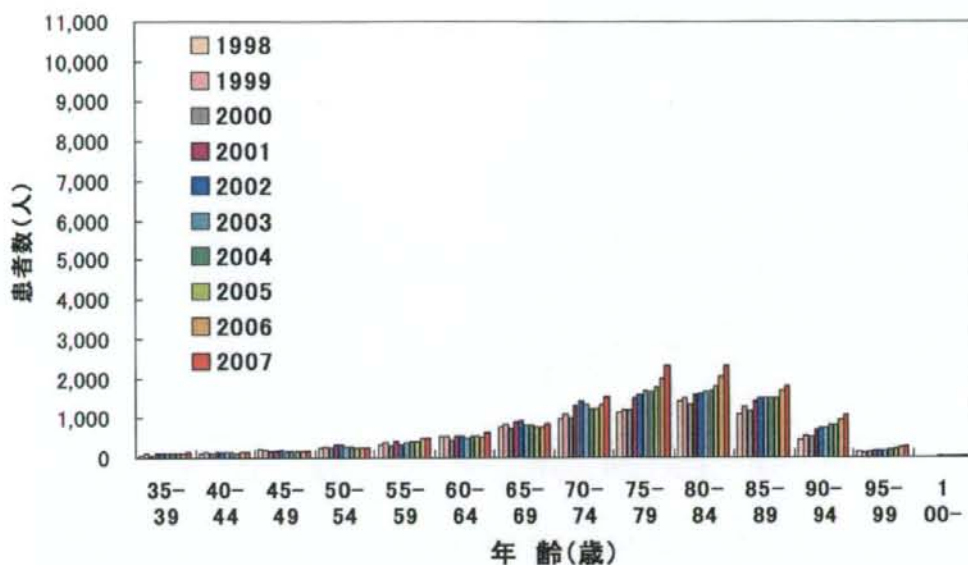


図 I-1 年齢階級別患者数 (男性)

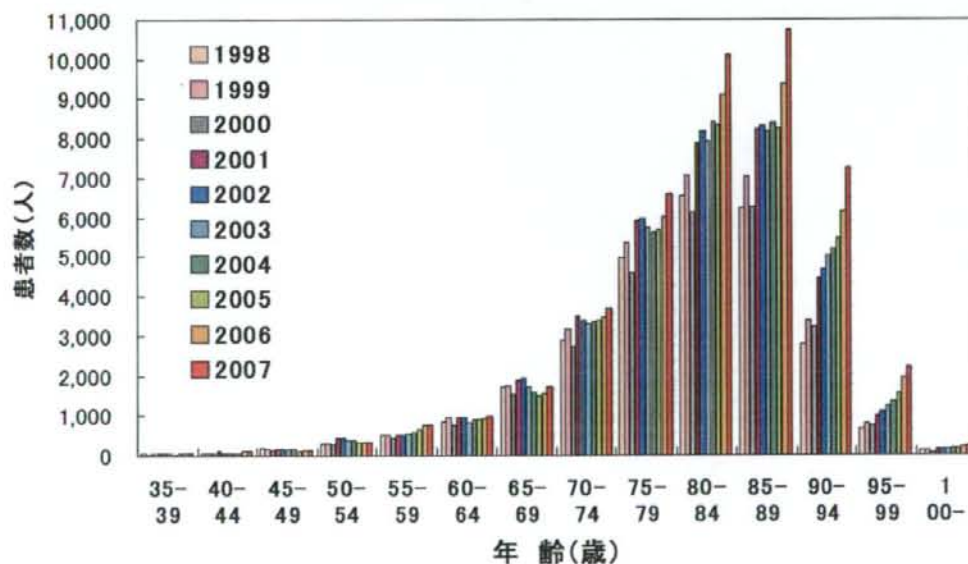


図 I-2 年齢階級別患者数 (女性)

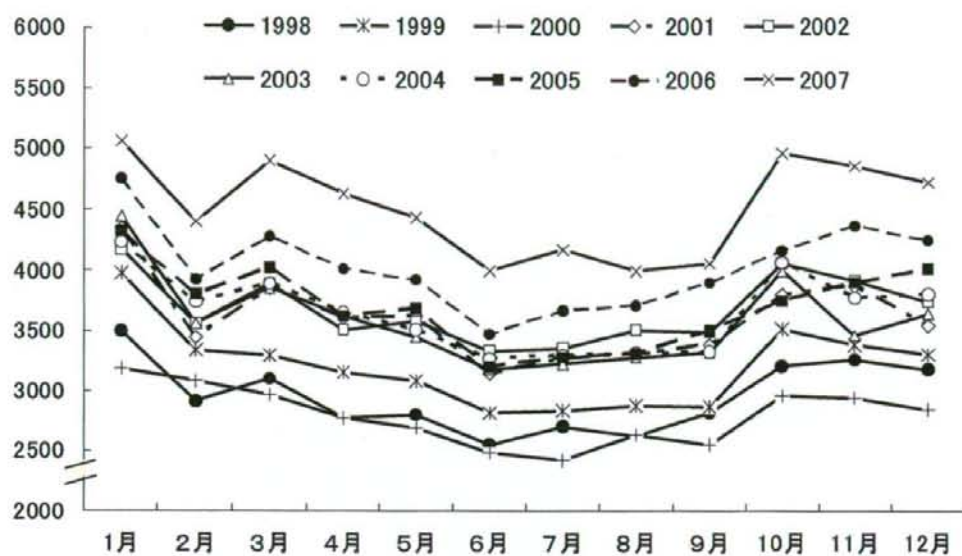


図 I-3 月別骨折発生数

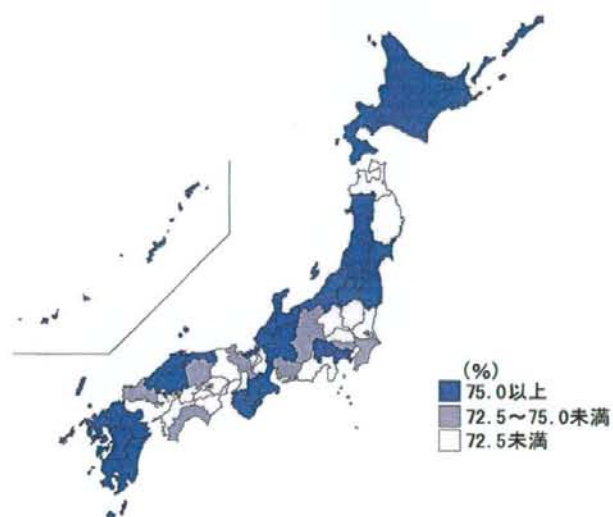


図 I-4 2006 年屋内受傷例の割合

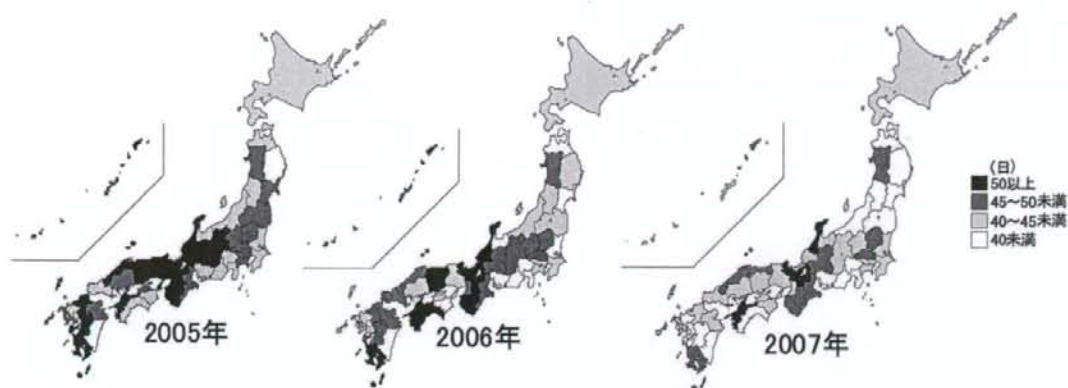


図 I-5 都道府県別 平均入院日数の経年推移

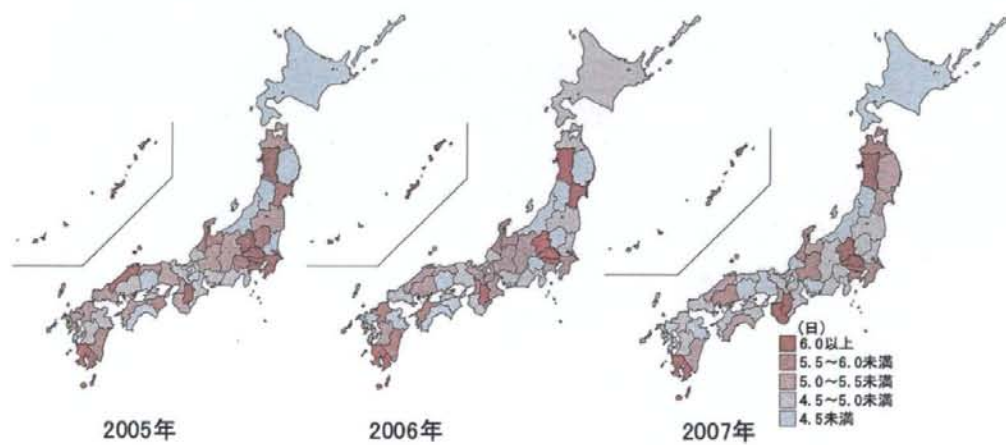


図 I-6 都道府県別 術前待機日数の経年的推移

スピアマン順位相関係数=0.3262

データ数=47

t値(df)=2.315(45)

確率P=0.0252

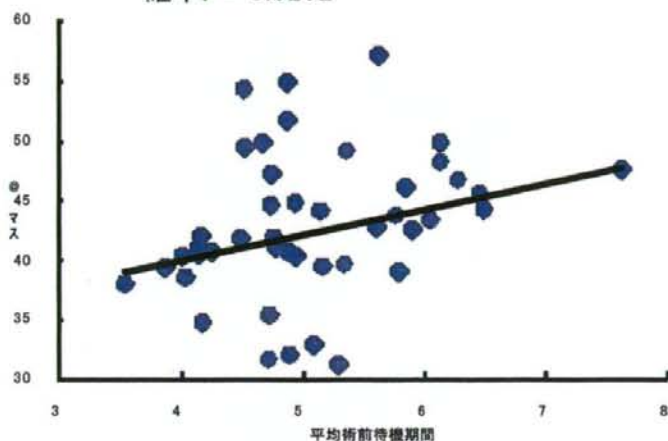


図 I-7 都道府県別術前平均待機期間と平均入院期間  
(2007 年発生例)

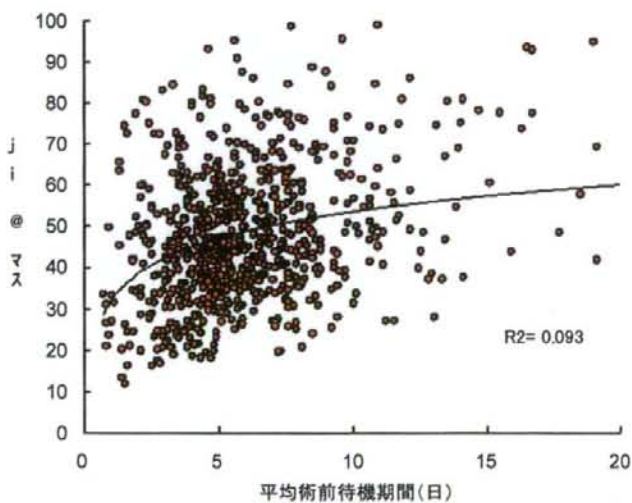


図 I-8 年間 20 例以上手術を行った施設 (2006 年) における検討

表 1-1 大腿骨近位部骨折全国調査 調査票

平成19年(2007年)大腿骨近位部(頸部)骨折に関する調査

NO. 1

御協力をお願い：平成19年1月1日～平成19年12月31日に受傷し貴院を受診した大腿骨近位部(いわゆる頸部)骨折患者について、記入例をご参照の上ご記入下さい。なお患者様の正確な統計を願するため、患者の有無にかかわらず、ご返送下さるようお願い致します。※シシ目で切り取って「返付用」のみをご返送下さい。

大腿骨近位部骨折患者：なし あり( ) 名 内訳(男 名/女 名)

名前(またはID)	年齢	性別	年齢	骨折日			手術日		左右	骨折型	受傷の場所	受傷原因	治療法	入院期間		
				2月	1日	2日	1日	2日							3日	
1	○	♀	85歳	2月	1日	2月	1日	2月	3日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	2月1日～4月1日
2	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
3	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
4	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
5	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
6	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
7	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
8	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
9	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
10	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
11	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
12	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
13	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
14	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
15	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
16	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日
17	○	♀	歳	月	日	月	日	月	日	右	左	股関節 転子髁	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7	保・股関節療法	月 日～月 日

転子髁 股関節 手術が行われ転院してきた症例で○を記入(骨折日から右の項目は記載不要) 骨折型 股関節(内側, weak fracture) 転子髁(外側, trochanteric fracture) 受傷原因 1. 寝ていて・体を捻って (オ, おむつ骨折) 2. 立った高さからの転倒 3. 階段・段差の踏み外し 4. 転落・交通事故 5. 記憶無し 6. 不明  
治療法 薬物：人工骨(骨髄)置換術, 接合：骨接合術 入院期間 退院日は現在入院中の症例は記載不要です

貴病院名： \_\_\_\_\_

連絡先 〒100-8558 東京都千代田区千代1-1-1  
鳥取大学整形外科内  
日本整形外科学会鳥取県支部  
Tel: 0859-38-4587  
Fax: 0859-38-5589

表 I-2.

## 2005-2007年 発生例調査結果

2005-2007のべ施設数			
回答率	総施設数	回答施設数	回答率(%)
認定研修施設	6,461	3,302	51.1%
臨床整形外科	3,609	1,697	47.0%
#	10,070	4,999	49.6%

全登録症例数	
認定施設	160,065
臨床整形外科	7,438
#	167,503

35歳以上	
削除症例	
確定症例数	153,807
男性	32,227
女性	121,271
性別不明例	309

左右別	男性	女性	合計(男女不明も含む)
右側	15,242	58,868	74,214
左側	16,678	61,268	78,064
不明	307	1,135	1,529
左右両側骨折例			

骨折型	男性	女性	合計(男女不明も含む)
内側骨折	14,602	56,534	71,296
外側骨折	17,348	63,587	81,082
不明	277	1,150	1,429

受傷場所	90歳未満		90歳以上		合計	記載無しまたは年齢不明	
	男性	女性	男性	女性			
屋内	15,710	66,743	70.8%	2,833	21,009	88.2%	106,295
屋外	11,123	22,820	29.2%	649	2,541	11.8%	37,133
	26,833	89,563		3,482	23,550		
		116,396			27,032		143,428
							10,379

受傷原因	90歳未満		90歳以上		合計	記載無しまたは年齢不明		
	男性	女性	男性	女性				
寝ていて・体を捻って	302	1,261	1.3%	53	468	1.9%	2,084	
立った高さからの転倒	19,181	74,466	77.1%	2,962	20,648	84.2%	117,257	
階段・段差の踏み外し	1,652	5,338	5.8%	130	697	2.9%	7,817	
転落・交通事故	5,259	5,679	9.0%	208	632	3.0%	11,778	
記憶無し	255	1,349	1.3%	41	309	1.2%	1,954	
不明	1,194	5,575	5.6%	201	1,692	6.8%	8,662	
(おむつ骨折：重複)	41	171	0.17%	9	79	0.31%	300	
1999, 2000, 2001年の調査のみ	27,843	93,668		3,595	24,446		0.20%	4,255
		121,511			28,041		149,552	

治療法	内側骨折	71,296	外側骨折	81,082
保存	4,259	6.1%	4,135	5.2%
観血	65,479	93.9%	75,687	94.8%
人工骨頭置換術	43,148	65.9%	711	0.9%
骨接合術	21,947	33.5%	74,589	98.5%
手術法不明	384	0.6%	387	0.5%
不明	1,558		1,260	

表 I-3. 経年の推移

大腿骨近位部骨折調査結果 経年推移  
(1998~2007年)

	1998年 (H10年)	1999年 (H11年)	2000年 (H12年)	2001年 (H13年)	2002年 (H14年)	2003年 (H15年)	2004年 (H16年)	2005年 (H17年)	2006年 (H18年)	2007年 (H19年)
回答率(%)										
認定施設	53.7%	55.6%	46.0%	51.5%	55.0%	51.2%	52.3%	48.7%	49.5%	55.5%
臨床整形外科	40.5%	54.4%	48.5%	55.4%	51.3%	53.7%	49.3%	47.7%	47.6%	45.7%
計	48.4%	55.1%	47.0%	53.0%	53.6%	52.1%	51.2%	48.3%	48.9%	51.8%
全登録症例数(人)										
全年齢	36,447	40,069	35,903	45,604	47,642	46,454	45,811	50,006	54,607	62,890
35歳以上	35,333	38,859	34,782	44,938	46,151	45,069	44,579	49,600	54,273	62,403
骨折型(人)										
頸部	15,767	17,208	14,878	19,027	19,959	19,813	20,354	20,621	23,771	26,904
転子部	20,111	22,362	19,159	24,926	25,261	24,628	25,079	25,205	26,581	29,296
不明	348	499	415	516	384	366	402	319	494	616
頸部/転子部	0.78	0.77	0.78	0.76	0.79	0.80	0.81	0.82	0.89	0.92
受傷側(左右)(人)										
右	17,552	19,375	16,786	21,650	22,185	21,731	22,001	22,287	24,518	27,409
左	18,379	20,253	17,458	22,565	23,144	22,790	23,551	23,376	25,738	28,950
不明	295	441	208	254	275	286	283	482	590	457
両側	153	378	364	473	447	477	454			
右/左	0.96	0.96	0.96	0.96	0.96	0.95	0.93	0.95	0.95	0.95
平均年齢(歳) (35歳以上)										
内側	(76.5)	76.9	77.2	77.3	77.5	77.9	78.1	78.3	78.6	79
外側	(80.5)	80.7	81.0	81.1	81.5	81.8	82.1	82.3	82.7	83
全体	(78.7)	79.2	79.4	79.6	79.8	80.2	80.3	80.6	80.8	80.8
入院日数 (日) (急性期治療施設)										
	(54.8)	58.5	55.9	53.4	50.5	49.2	48.1	48.0	44.9	42.3
術前待機期 間(入院~手術、日)										
						5.6	5.4	5.3	5.2	5.0

表 I-4 頸部骨折における手術法選択の経年推移

頸部骨折における手術法選択の推移										
	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
人工物	10,615	11,782	9,967	12,402	12,732	12,314	12,451	12,885	14,030	16,233
骨接合	3,709	3,959	3,512	4,887	5,429	5,430	5,879	5,911	7,521	8,515
	74.1%	74.8%	73.9%	71.7%	70.1%	69.4%	67.9%	68.6%	65.1%	65.6%

< II. 大腿骨近位部骨折の術前待機期間に影響する要因の検討 図表 >

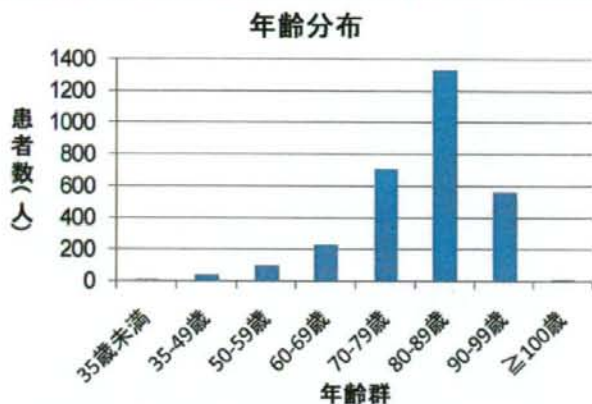


図 II-1 サンプル調査対象患者の年齢分布

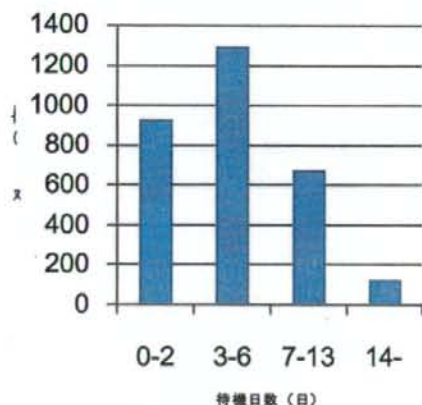


図 II-2 術前待機期間の分布

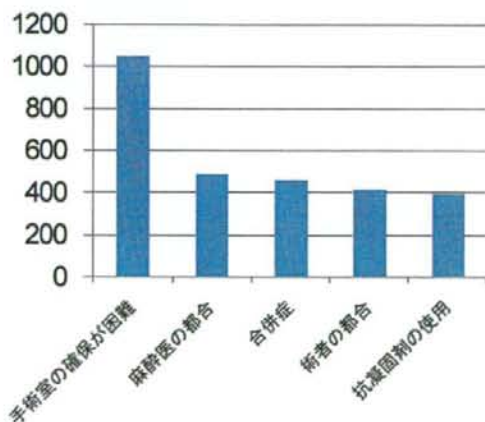


図 II-3 術前待機期間が72時間であった場合の原因(複数回答)



表 II-1 大腿骨近位部骨折待機期間 アンケート調査票

大腿骨近位部骨折（頸部（内側）骨折および転子部（外側）骨折）  
術前待機期間 についてのアンケート

大腿骨近位部骨折治療を担当しておられる先生に御回答頂きますようお願い申し上げます（回答に要する時間は5分程度です）。

貴施設名： \_\_\_\_\_ 1

ご記入者名： \_\_\_\_\_ 2

1. 貴施設について

① 病床数は

- <sup>3</sup> 500床以上    <sup>4</sup> 300～499床    <sup>5</sup> 200～299床  
<sup>6</sup> 100～199床    <sup>7</sup> 50～100床    <sup>8</sup> 20～49床    <sup>9</sup> 20床未満

② 整形外科病床数は

- <sup>10</sup> 500床以上    <sup>11</sup> 300～499床    <sup>12</sup> 200～299床  
<sup>13</sup> 100～199床    <sup>14</sup> 50～100床    <sup>15</sup> 20～49床  
<sup>16</sup> 20床未満    <sup>17</sup> 不定（決まっていない）

③ 整形外科医師数（常勤医師）は

- <sup>18</sup> 10人以上    <sup>19</sup> 5～9人    <sup>20</sup> 3～4人    <sup>21</sup> 2人    <sup>22</sup> 1人  
<sup>23</sup> 非常勤のみ    <sup>24</sup> 不在

2. 大腿骨近位部骨折の手術治療の現状について

① 目標とする入院後～手術までの期間は

- <sup>25</sup> 2週間以上    <sup>26</sup> 1週以上2週未満    <sup>27</sup> 3～6日  
<sup>28</sup> 1～2日    <sup>29</sup> 24時間以内  
<sup>30</sup> その他 \_\_\_\_\_ 31

② 実際の入院後～手術までの期間（貴施設でもっとも多い症例では）

- <sup>32</sup> 2週間以上    <sup>33</sup> 1週以上2週未満    <sup>34</sup> 3～6日  
<sup>35</sup> 1～2日    <sup>36</sup> 24時間以内  
<sup>37</sup> その他 \_\_\_\_\_ 38

③ 治療に際してクリニカルパスを使用していますか？

- <sup>39</sup> 使用している  
<sup>40</sup> 使用していない  
<sup>41</sup> その他 \_\_\_\_\_ 42

表 II-2 大腿骨近位部骨折待機期間 サンプルング調査票

症例 No. 01	
<b>日整会 大腿骨近位部骨折 術前待機期間に関する調査票</b>	
(調査対象は本年1月1日以降に手術を実施した症例)	
年齢	性別 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 骨折型 <input type="checkbox"/> 頸部 <input type="checkbox"/> 転子部
骨折日	__月__日 ( <input type="checkbox"/> 不明 ) 入院日 __月__日
手術日	__月__日 (入室時間 <input type="checkbox"/> AM <input type="checkbox"/> PM 時頃)
◆合併症・既往症の有無	
<input type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/> 有り(わかる範囲で以下に御記載下さい。複数回答可)	
<input type="checkbox"/> 肺炎 ( <input type="checkbox"/> 入院以前から <input type="checkbox"/> 入院後発症 )	
<input type="checkbox"/> 心筋梗塞 ( <input type="checkbox"/> 入院以前から <input type="checkbox"/> 入院後発症 )	
<input type="checkbox"/> 脳卒中 ( <input type="checkbox"/> 入院以前から <input type="checkbox"/> 入院後発症 )	
<input type="checkbox"/> 胃切・腸切除 <input type="checkbox"/> 神経筋疾患	
<input type="checkbox"/> 認知症 (程度は問わない)	
<input type="checkbox"/> その他 ( )	
◆抗凝固剤の使用 (入院以前から)	
<input type="checkbox"/> あり (薬剤名: ) <input type="checkbox"/> なし	
◆手術について	
術式は	<input type="checkbox"/> 骨接合術 <input type="checkbox"/> 人工骨頭・関節置換術
麻酔は	<input type="checkbox"/> 麻酔科医 <input type="checkbox"/> 整形外科医 <input type="checkbox"/> 他科医師
	<input type="checkbox"/> 脊麻 <input type="checkbox"/> 硬膜外 <input type="checkbox"/> 全麻 <input type="checkbox"/> その他
手術枠は	<input type="checkbox"/> 通常の手術枠 <input type="checkbox"/> 通常の外枠
◆術前待機期間が72時間(3日以上)であった場合	
その原因として最も考えられるのは(影響の大きかったものについて最大3つまで選択)	
<input type="checkbox"/> 麻酔医の都合 <input type="checkbox"/> 術者の都合 <input type="checkbox"/> 手術室の確保が困難	
<input type="checkbox"/> 合併症 <input type="checkbox"/> 抗凝固剤(抗血小板剤を含む)の使用	
<input type="checkbox"/> その他 ( )	

表 II-3 アンケート回答施設

1. 貴施設について			
①病床数は			
500床以上	115	16.6%	
300～499床	185	26.7%	
200～299床	119	17.1%	
100～199床	167	24.1%	
50～100床	66	9.5%	
20～49床	18	2.6%	
20床未満	17	2.4%	
記載無し	7	1.0%	
②整形外科病床数は			
500床以上	0	0.0%	
300～499床	2	0.3%	
200～299床	2	0.3%	
100～199床	29	4.2%	
50～100床	224	32.3%	
20～49床	329	47.4%	
20床未満	27	3.9%	
不定(決まっていない)	79	11.4%	
記載無し	2	0.3%	
③整形外科医師数は			
10人以上	46	6.6%	
5～9人	230	33.1%	
3～4人	240	34.6%	
2人	131	18.9%	
1人	45	6.5%	
非常勤のみ	2	0.3%	
不在	0	0.0%	
記載無し	0	0.0%	

表 II-4 手術治療の現状について

2. 大腿骨近位部骨折の手術治療の現状について		
①目標とする入院後～手術までの期間は		
2週間以上	6	0.9%
1週間以上2週間未満	20	2.9%
3～6日	241	34.5%
1～2日	373	53.4%
24時間以内	47	6.7%
その他	11	1.6%
(重複記載4件)		
②実際の入院後～手術までの期間(貴施設でもっとも多い症例では)		
2週間以上	4	0.6%
1週間以上2週間未満	90	13.0%
3～6日	452	65.1%
1～2日	119	17.1%
24時間以内	17	2.4%
その他	9	1.3%
記載無し	3	0.4%
③クリニカルパス		
使用している	419	60.4%
使用していない	254	36.6%
その他	20	2.9%
記載無し	1	0.1%
④麻酔についておたずねします。		
1)麻酔を麻酔科医あるいは他科医師(外科医など)に依頼していますか？		
ほとんど全ての症例(9割以上)を麻酔科医に依頼している。	437	63.0%
ほとんど全ての症例(9割以上)を他科医師に依頼している。	9	1.3%
症例に応じて依頼し、他は整形外科医が行っている。	106	15.3%
ほとんど全ての症例(9割以上)で整形外科医が行っている。	133	19.2%
記載無し	9	1.3%
2)常勤の麻酔科医(麻酔単独の診療科)が		
いる	446	64.3%
いない	237	34.1%
記載無し	11	1.6%
⑤手術室の使用について		
骨折例に対して、自由に手術予定が組める	338	48.7%
予定手術のため骨折例の手術予定が組みにくい。	303	43.7%
その他	48	6.9%
記載無し	5	0.7%
⑥抗凝固剤の使用例について(脳血管障害の既往がない場合)		
非使用例と同様に早期手術を行う。	165	23.8%
抗凝固剤の効果が低下するまで待機する。	489	70.5%
その他	34	4.9%
記載無し	6	0.9%

表 II-5 術前待機期間について

3. 大腿骨近位部骨折の術前待機期間について			
①術前待機期間に最も大きな影響を与えるのはどのような要因とお考えですか？(複数回答可)			
麻酔医の都合	210	30.3%	
手術室が確保できない	291	41.9%	
整形外科医が多忙なため	203	29.3%	
合併症のため	480	69.2%	
その他	105	15.1%	
②大腿骨近位部骨折の術前待機期間についての問題点を御記載下さい。			
			別紙

表 II-6 サンプル調査患者背景

◆患者背景			
年齢(歳)	80.7	( 8~103 )	
性別(人)			
男	647		
女	2297		
記載無し	61		
骨折型(人)			
頸部	1326		
転子部	1605		
記載無し	74		
手術日			
時刻 AM	720		
PM	2170		
記載無し	115		
術前期間(日)	5.0	( 0~88 )	
◆合併症・既往症の有無			
無し(人)	522	( 17.4% )	
有り(人)	2190	( 72.9% )	
記載無し	293		
肺炎(人)	172	( 5.7% )	
入院以前から	102	( 3.4% )	
入院後発症	67	( 2.2% )	
心筋梗塞(人)	128	( 4.3% )	
入院以前から	115	( 3.8% )	
入院後発症	5	( 0.2% )	
脳卒中(人)	445	( 14.8% )	
入院以前から	415	( 13.8% )	
入院後発症	7	( 0.2% )	
胃切・腸切除(人)	111	( 3.7% )	
神経筋疾患(人)	39	( 1.3% )	
認知症(程度は問わない)(人)	985	( 32.8% )	
その他	1557	( 51.8% )	
◆抗凝固剤の使用(入院以前から)			
あり(人)	626	( 20.8% )	
なし(人)	2290	( 76.2% )	
記載無し	89		

表 II-7 サンプリング調査患者 手術と待機期間への影響因子

◆手術について		
術式(人)		
骨接合術	2063	( 68.7% )
人工骨頭・関節置換術	929	( 30.9% )
記載無し	13	
麻酔は(人)		
麻酔科医	2087	( 69.5% )
整形外科医	820	( 27.3% )
他科医師	14	( 0.5% )
記載無し	84	
脊麻	1718	( 57.2% )
硬膜外	179	( 6.0% )
全麻	1050	( 34.9% )
その他	25	( 0.8% )
記載無し	33	
手術枠は(人)		
通常の手術枠	2140	( 71.2% )
通常の手術枠外	694	( 23.1% )
記載無し	171	
◆術前待機期間が72時間(3日以上)であった場合 その原因として最も考えられるのは (影響の大きかったものについて最大3つまで選択)		
麻酔医の都合	490	( 16.3% )
術者の都合	416	( 13.8% )
手術室の確保が困難	1047	( 34.8% )
合併症	458	( 15.2% )
抗凝固剤(抗血小板剤を含む)の 使用	397	( 13.2% )
その他	335	( 11.1% )

<Ⅲ. 大腿骨近位部骨折の年齢階級別発生率調査 図表>

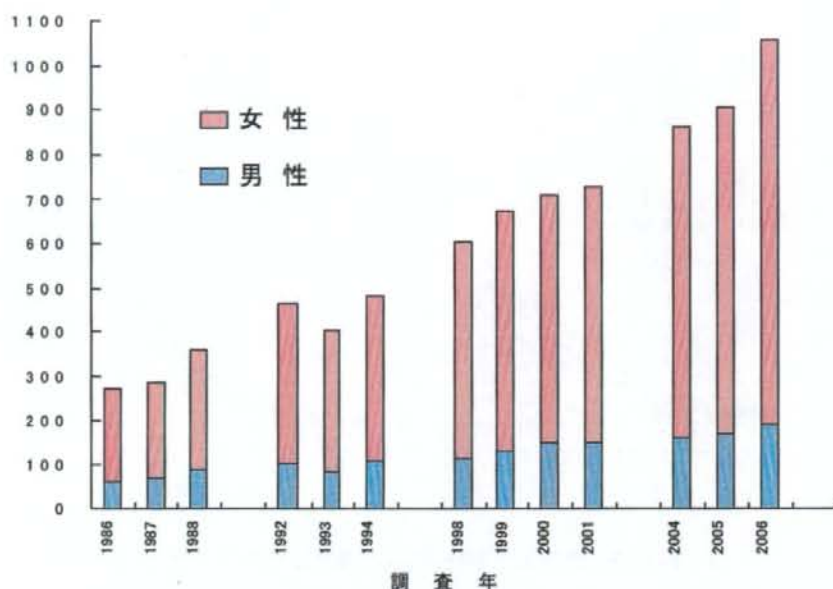


図 III-1 鳥取県での年間骨折患者数の推移

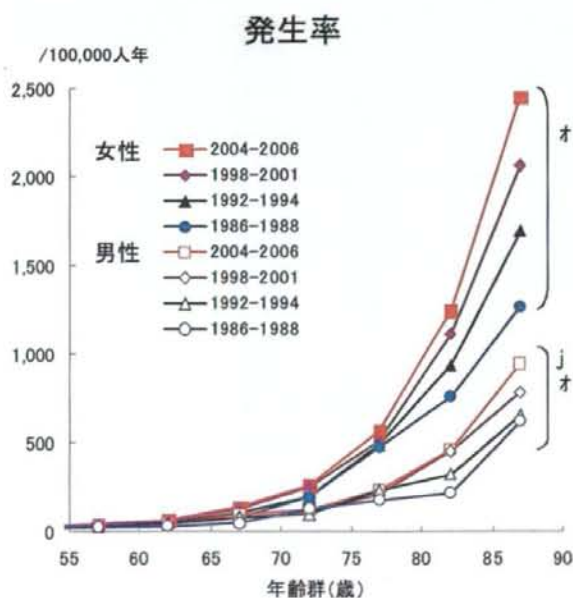


図 III-2 性・年齢階級別発生率の推移

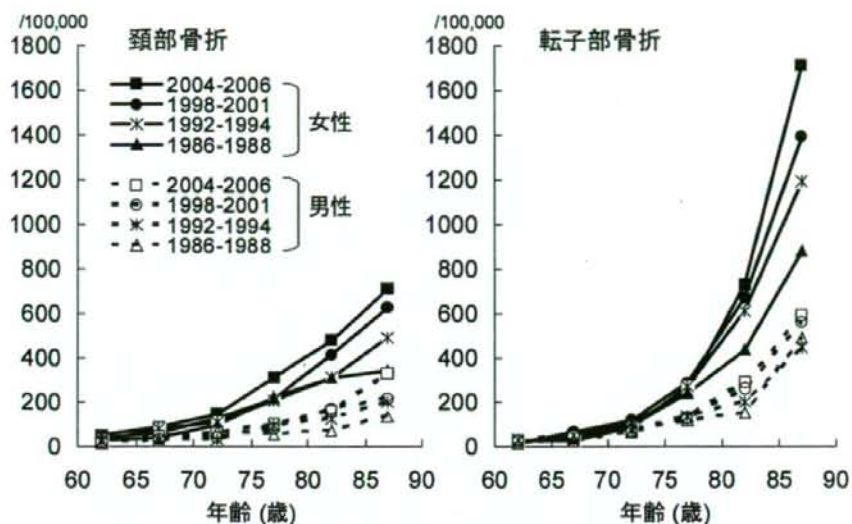


図 III-3 骨折型・性・年齢階級別発生率の推移

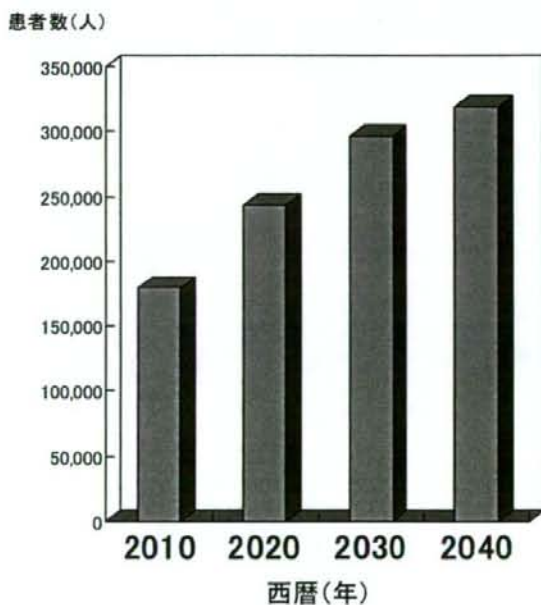


図 III-4 大腿骨近位部骨折患者数の将来推計



表 III-1 大腿骨近位部骨折調査票

平成16年大腿骨近位部(近位部)骨折に関する調査

NO. 1

御協力をお願い：平成16年1月1日～平成16年12月31日に受傷し貴院を受診した大腿骨近位部(近位部)骨折患者について、記入例をご参照の上ご記入下さい。なお罹患率の正確な推計を期するため、患者の有無にかかわらず、ご返送下さるようお願い致します。ミシン目で切り取って「送付用」のみをご返送下さい。

大腿骨近位部骨折患者：なし あり( )名 内訳(男 名/女 名)

イニシャル Y R (姓 名)	No	転倒 例	性別 ○ 男 ● 女	年齢	骨折日			手術日		左右	骨折型	受傷の場所	受傷原因	治療法	入院期間
					2月 1日	2月 2日	2月 3日	2月 4日	2月 5日						
	1		男	85歳						右	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	2月1日～4月1日
	2		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	3		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	4		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	5		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	6		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	7		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	8		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	9		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	10		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	11		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	12		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	13		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	14		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	15		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	16		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日
	17		女	歳	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	右 左	内側 外側	股内 股外	1 2 3 4 5 6 7 8	保・観(薬換・接合)	月 日～月 日

骨折型 内側：股部、neck fracture 外側：転子部、trochanteric fracture 転倒例 施設で手術が行われ、転倒してきた症例では○をして下さい。  
 受傷原因 1. 寝ていて・体を捻って (オ、おむつ骨折) 2. 立った高さからの転倒 3. 階段・段差の踏み外し 4. 転落・交通事故 5. 記憶無し  
 6. 不明 治療法 置換：人工骨頭(関節)置換術、接合：骨接合術 入院期間 退院日は現在入院中の症例は記載不要です

連絡先 T80-0104 金子信博(研1)  
 鳥取大学整形外科内  
 日野山骨折転倒症委員会事務局

貴病院名： \_\_\_\_\_

<IV. 定点観察による大腿骨近位部骨折患者予後調査 図表>

1. 今、どこにお住まいですか。  
 a. 自宅    b. 病院    c. 介護施設    d. その他

2. 今の状態についてお尋ねいたします(最も該当するもの1つに○をお付け下さい)。  
 a. 交通機関等を利用して自力で外出する。  
 b. 隣近所なら自力で外出する。  
 c. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。  
 d. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をjしている。  
 e. 自力で車椅子に移乗し、食事準備はベッドから離れて行う。  
 f. 介助により車椅子に移乗する。  
 g. 自力で寝返りをうてる。  
 h. 自力で寝返りをうてない。

3. 介護認定を受けていますか。  
 a. はい    b. いいえ    c. 分からない  
 ※「はい」の場合  
 要支援(1, 2)    要介護(1, 2, 3, 4, 5)

4. 骨粗鬆症の薬を飲んでいますか。(注射を含む)。  
 a. はい    b. いいえ

5. 手術後現在までの間に他に骨折をおこしたことがありますか。  
 a. ある    b. ない  
 ※「ある」の場合 → いつ(平成\_\_年\_\_月)  
 どの骨折ですか。上の図の該当する所に○をお付け下さい。

6. 万が一患側がお亡くなりになった場合ご家族にお伺いいたします。  
 患者様は平成\_\_年\_\_月に\_\_\_\_が原因で亡くなりました。

アンケート記入日 平成19年\_\_月\_\_日  
 アンケート記入者  
 a. ご本人    b. ご家族    c. スタッフ    d. その他

ご協力ありがとうございました。




図 IV-1 大腿骨近位部骨折予後定点観察 調査票

## < V. 定点観測による脊椎骨折・上肢骨折予後調査 図表 >

「定点観測による脊椎骨折・機骨遠位部骨折・上肢骨近位部骨折予後調査」  
研究者用マニュアル

研究の概要

- 先生方の施設を受診された該当するすべての患者さんを登録します。
- 調査対象期間は平成19年8月から平成19年12月末日までとします（ただしこの調査対象期間内に多数の症例が見込まれる場合には、登録症例数あるいは登録期間をあらかじめ任意に限定していただくことが可能です。詳細は下記「研究の詳細」をご覧ください）。
- 調査は初診時、4～8週経過時、および12ヶ月経過時の3時点です。
- 患者さんのプライバシーを保護するため、調査シートの二枚目の切り取り線から下の部を郵送、またはFaxいただきます。
- Fax先は日本整形外科学会事務局（03-3818-2337）です。

研究の詳細

- ◇ 貴院の病院コードは「01」です。
- ◇ 平成19年6月1日以降平成19年12月31日までの7ヶ月間を調査対象期間とし、その期間内に受傷した脊椎骨折・機骨遠位部骨折・上肢骨近位部骨折のすべての患者さんについて同封の調査用紙にご記入下さい。
- ◇ 「すべての患者さん」というのを強調させていただきますが、これは入院した症例だけとか手術症例だけとかに限定すると、選択バイアスが生じるため、一定期間内に貴院を受診したすべての症例を登録頂きたいのです。
- ◇ 調査期間は「平成19年6月1日以降平成19年12月31日まで」としましたが、その間の症例数が多くなる場合には先生方の御負担が増えますので、10症例を超えるような場合には登録期間を限定していただくことも、あるいは、登録症例数を10症例とか20症例に限定していただいてもかまいません。例えば、(1)脊椎骨折は7月1日から20症例に達するまで登録する、(2)機骨遠位部骨折は7月1日から11月30日までの6ヶ月間の症例を登録する、(3)上肢骨近位部骨折は10症例に達するまで登録する、などです。繰り返しになりますが、症例登録は、連続する症例の登録をお願いいたします。
- ◇ 期間内の再骨折例は対象となりますが、偽関節等による再手術例は除外して下さい。
- ◇ 腫瘍による病的骨折は含めないで下さい。
- ◇ 各調査シートの一枚目に添って切り取り線を記入してしまいましたが、ここで切り取る患者さんが同定できなくなりますので、切り取らないでください。
- ◇ 調査研究用コードは患者さんのプライバシーを保護するため、また後日再調査を可能とするため先生方に任意の番号をつけていただくものです。（例：5-001など）つまり、本調査シートあるいは院内IDと調査研究用コードの対応表を先生方に保管していただく必要があります。
- ◇ 入院期間：現在入院中の患者に関しては退院日を空白のまま結構です。また術後リハビリ目的などで転院して入院された場合も、貴院での入院期間をご記入下さい。急性期（一般）病棟から回復期リハビリ病棟や療養型へ移った場合には、全ての病棟での入院期間を含め、貴院を退院（転院）した日までの、入院期間をご記入下さい。受傷以前から入院していて、入院中に骨折した場合は、入院日を骨折発生日としてください。
- ◇ 患者さんへの調査研究の説明文、同意書、患者登録リスト（調査施設保管用）の用紙は誠に恐れ入りますが、コピーしてご使用ください。
- ◇ 12ヶ月経過時の調査シートは後日郵送いたします。

※ご不明な点がございましたら下記までご連絡下さい。（FAXまたはe-mailでのお問い合わせをお願いします）

連絡先：日整会骨粗鬆症委員会 骨折調査事務局  
〒885-0084 熊本県五名市中 1950 公立五名中央病院 整形外科 中野留謙  
Fax 0988 73 2287 Mail nakano@tamama-chp.jp

図 V-1. 研究者用マニュアル

脊椎圧迫骨折調査シート1(初診時用)	
名前	
病院内ID	
切取線	
病院名	
病院コード	
研究調査用コード(登録ID)	*各施設で患者様にコードをつけ、必ずご記入ください。
性別	1. 男 2. 女
生年月日	(明治,大正,昭和,平成) 年 月 日
初診日	平成 年 月 日
主な診断方法	1. X線単純像 2. 臨床所見 3. MRI 4. 骨シンチ 5. その他
骨折年月日の特定	1. 全く不明 2. おおよそ特定可 3. 特定可
骨折年月日	平成 年 月 日(おおよそ特定可なら〇月上旬などと記入)
受傷場所	1. 不明 2. 一般住宅屋内 3. 施設・病院などの屋内 4. 屋外 5. その他
受傷前の主な生活場所	1. 自宅などの一般住宅 2. 病院 3. 介護施設など
受傷の原因	1. 不明 2. 原因なし 3. 重い物を持ったなど 4. 転倒 5. 転落 6. 交通事故 7. その他
受傷前の日常生活自立度	1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する 3. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 4. 外出の頻度は少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている 5. 車いすに移乗し、食事排泄はベッドから離れて行う 6. 介助により車いすに移乗する 7. 自力で寝返りをうつ 8. 自力では寝返りもうたない 9. 不明
受傷前の認知能力	1. 正常 2. 何らかの痴呆を有するが、日常生活は家庭内及び社会的には自立している 3. 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる 4. 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする 5. 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする 6. 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする
受傷前の腰痛	1. 全く痛くなかった 2. 時々労作時などに軽い痛みがあった 3. 中等度の痛みがあった 4. 強い痛みが常時または、頻繁にあった
脊椎圧迫骨折調査シート1(初診時用) <span style="float: right;">           &lt;連絡先&gt;公立玉名中央病院整形外科            日本整形外科学会骨粗鬆症委員会事務局            E-mail: nakano@tamana-cl.jp         </span>	

図 V-2. 脊椎圧迫骨折調査シート1 (初診時用)